

西宮市会報告

NO.139
2026年
夏号

日本共産党



野口あけみ
●議員団長
●総務常任委員
●都市計画審議会委員



庄本けんじ
●幹事長
●議会運営委員
●健康福祉常任委員副委員長



三好さつき
●教育こども常任委員
●広報委員
●社会福祉審議会委員

発行●日本共産党西宮市会議員団 西宮市六湛寺町10番3号(西宮市役所内)
Eメール:nmc30547@nishi.or.jp TEL:0798-35-3368 FAX:0798-22-7815 ホームページ:http://nishinomiya.jcp-giin.net/

困った時は

日本共産党

ご相談は
お気軽に 0798-35-3368

補聴器購入費助成制度実現に向け

ついに厚い壁を突破!



加齢性難聴の補聴器購入費助成について、西宮市議団はこれまで繰り返し一般質問や予算要望等を行い、年金者組合の方たちとも一緒に市に要請を行ってきました。

前回の一般質問(2024年6月議会)では、「財政的に困難」と答弁されたものの、「明石市並みに助成を行うとしたら、事業費はいくらになるか」と質し、「対象者は600人と想定、1人2万円助成で行くと1200万円」と具体的に助成額を示した答弁を引き出しました。

この6月議会で三好さつき議員が、兵庫県内41市町のうち、助成を行っているのは21市町と半数を超えてきていること、難聴が認知症のリスク因子であることは広く認められてお

り、7月から認知症無償診断事業を始める西宮市でこそ助成制度の必要があると指摘し、創設を求めました。

今回も厳しい答弁になるのかと思っていたところ、「国による助成制度が開始されるまでの間、先駆的に実施している市町の事業内容などを研究し、本市で実施する場合の財源確保について検討を進める」との答弁。ついに、「困難」をくりかえしていた厚い壁を突破し、実現に大きく近づきました。

補聴器は高額で年金生活の高齢者にとっては、なかなか手が出せません。高齢になってもいきいきと生活が送れるよう、補聴器購入費助成制度の早期実現に、いっそうがんばります。

“市民要求”めぐっての違い「クッキリ」



意見書・決議・請願	件名	結果	共産党 (3人)	維新の会 (8人)	ぜんしん (7人)	啓誠会 (6人)	公明党 (6人※)	市民クラブ (6人)	一色	佐野	村上	よつや
意見書案 第15号	中東情勢の影響による物価高騰対策を タイムリーに実施するよう求める意見書	不採択	○	×	×	×	○	○ (花岡退場)	○	○	○	○
意見書案 第16号	カリキュラム・オーバーロードの 改善を求める意見書	不採択	○	×	×	×	○	○	○	○	○	○
決議案 第1号	大阪国際空港、姫路港および神戸空港の 「特定利用空港・港湾」指定に同意、容認し ないよう求める決議	不採択	○	×	×	×	×	○ (花岡退場)	○	○	×	○
請願 第18号	交通事故等による被害を受けた胎児に係る 法整備を求める意見書の提出に関する請願	採択	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
請願 第19号	国に「介護保険制度の抜本改善、大幅な処 遇改善を求める」意見書に関する請願	不採択	○	×	×	×	×	○	○	○	○	○
請願 第20号	介護サービス事業所に対し、物価高騰や人 件費増加に対応するための給付金を国から の交付金等も活用し、早急に支給すること。 また、今後の経済状況に応じ継続的な 支援制度を検討することを求める請願	不採択	○	×	×	×	×	○	○	○	○	○



庄本けんじ

生活保護制度は
国民生活を支える
基底的土台です
＝憲法25条

6月議会での一般質問で、庄本けんじ市会議員は、生活保護制度の問題を取り上げました。生活保護制度は、国民の暮らしの水準を決める基底部分であり土台です。ところが、政府は、その制度の改悪を繰り返してきました。とくに、**2013年の生活扶助基準の大幅減額の強行は強烈でした。「いのちのとりで裁判」が提起され、十数年におよぶ審理の結果、国の決定は違法との厳しい判決がくだされました。**質問では、この判決にたいする政府の不当な対応について質しました。

答弁では、「今回の最高裁における判決は、平成25年当時の生活扶助基準改定において、『デフレ調整に係る厚生労働大臣の判断の過程及び手続には過誤、欠落があった』として、原告に対する当時の保護変更決定処分が取り消されたものです。……**行政運営の透明性と手続きの正当性が厳しく問われた判決であった**」との認識がしめされました。



支給漏れは権利侵害！抜本的改善を求める！

憲法25条の「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」、との規定を受けて制定された生活保護法では、「最低限度の生活は、健康で文化的な生活水準を維持することができるものでなければならない」と規定しています。生活保護費の扶助費の支給は、生存権のギリギリのところを保障するものです。**支給にミスがあれば、それは直ちに、権利侵害となるものです。扶助費の支給漏れは絶対にあってはなりません。**質問では、**これまでの支給漏れの具体例をあげ、生活保護事務の抜本的改善を強く求めました。**当局は、「まずはお詫び申し上げます」と謝罪し、「今後このような事象が生じないよう、引き続き適正な生活保護費の算定を行ってまいります」と答弁しました。



三好さつき

聞こえのフレイル予防と
補聴器購入トラブル

三好さつき議員は、加齢性難聴の補聴器購入費助成制度創設(1面参照)と、聞こえのフレイル予防、補聴器購入トラブルについて、質問しました。

「耳の聞こえが悪いのは年のせい」とあきらめ、耳鼻科を受診する人はあまりいません。**難聴になると、孤立し認知症が進行することも報告されています。**三好議員は7月から始まる**認知症無償診断事業の場においても聞こえのチェックができるよう求めました。**当局は、関係部署と連携し、効果的な啓発を行うと答弁。ぜひ、認知症無償診断事業の場を有効に使ってほしいものです。

また、補聴器は大変高額です。**耳の聞こえの悪い人が1人で販売店を訪れ、よく理解されないまま購入し、上手く使えないなどのトラブルが発生しています。**三好議員は**市のホームページなどに、補聴器購入の際のアドバイスを発信すべきと求め、市は、周知すると答弁しました。**



男性にもHPVワクチン接種を！

次に三好議員は、HPVワクチンについて質問しました。HPVは性行為によって感染するウイルスで、代表的な病気に子宮頸がんがあり、毎年約11000人が罹患し、約2900人が命を落としています。また患者は20代後半から急増し、出産にも大きく影響します。

HPVワクチンの公費での接種対象は、**日本の場合小学6年～高校1年相当女子に限られていますが、諸外国では男性が接種することにより、多くの女性が子宮頸がんにかからずすむことが期待でき、男性の中咽頭がん等の発症リスクを効果的に低減できることから男性も接種対象としています。**西宮市においても男女公平にHPVワクチンが大切なことなど周知し、**接種助成を行うよう求めました。**

市は「法に基づかない任意の予防接種への費用助成は原則として行わない」との答弁でした。子どもたちの将来の健康のため、男女ともに実施することを強く願います。



伊丹空港の「特定利用空港」化に、同意・容認するな！

国は3月兵庫県に対し、**大阪国際空港(伊丹空港)、神戸空港、姫路港を、「特定利用空港・港湾」の対象候補として検討していることを説明しました。**

「**特定利用空港・港湾に指定されれば、自衛隊などが有事(戦時)に円滑に利用することを前提に、平時から戦闘機の離発着や、人員・物資の輸送の訓練等を行うことになります。自衛隊と米軍の共同訓練も進んでおり、米軍の利用も考えられます。**

高市政権は今、軍事費2倍化(GDP比1%→2%へ)や、敵基地攻撃能力を一層強化するため長射程ミサイルの配備、弾薬庫の増設など、「戦争する国」づくりを急速に進めています。その一環で、**民間空港や港湾も軍事利用できるよう「特定利用空港・港湾」指定を拡大しようとしているのです。**

特に**伊丹空港は、住宅や工場などが密集した都市中心部にあり、万一の事故の発生、軍用機の莫大な騒音など、大きな影響を及ぼします。それは、西宮市民も無関係ではありません。**

日本共産党兵庫県議団や関係自治体の議員団は、伊丹空港はじめ県内の空港、港湾を「特定利用空港・港湾」に指定すると、国や県、自治体への申し入れなどに取り組んでいます。**西宮市会議員団も6月議会に決議案(1面参照)を提出しましたが、賛成少数で不採択となりました。**



下水道使用料・水道料の値上げを検討

西宮市では、水道料金と下水道使用料の値上げを検討しています。**下水道使用料は令和9年度から、水道料金は令和11年度からの予定です。値上げ幅は、下水道使用料は平均21%の値上げ、水道料金は平均23%の値上げと推計しています。**なかでも、問題は、**使用量が少ないほど、値上げ幅が大きくなる料金体系を考えていることです。**「こんなときに、公共料金の値上げはきつい」「20%も値上げ?」「何とかならないの?」…悲鳴が聞こえてきます。みなさん方の切実な声を、日本共産党市議団にお寄せください。

